

vol.320

2022
AUTUMN



アルテ

鳥取県文化振興財団情報誌

| 特集 |

弦楽器の“至宝”一堂にお目見え

ストラディヴァリウス・コンサート2022

| 鳥取の未来のために |

TCOクリニック

Stradivarius

弦楽器の“至宝”一堂にお目見え

ストラディヴァリウス・コンサート2022



若手弦楽四重奏楽団「ゴルトムント・クアルテット」が、今年10月、ストラディヴァリウスの弦楽四重奏セット「パガニーニ・クアルテット」を携えて、東京・鳥取(倉吉)・大阪の3カ所で日本初公演を行う。「価値の高い楽器」として、広く知られているストラディヴァリウスは、なぜ演奏家やコレクターから求められるのか。自身も製作者である三朝バイオリン美術館前館長の岡野^{たけひと}壮人さんが、その魅力をひも解く。

北イタリアの街で 一時代築いた立役者

弦楽器の最高峰として、世界中の演奏家やコレクターに愛されているストラディヴァリウス。多くの人が一度はその名を耳にしたことがあるだろう、名器の象徴と言える。

ストラディヴァリウスの製作者、アントニオ・ストラディヴァリ(1644-1737)は17世紀後半から18世紀前半にかけて、北イタリアのクレモナを拠点に活躍した。クレモナはストラディヴァリやその師匠のアマティ、名工として名高いグアルネリらを輩出したヴァイオリンの街だ。ストラディヴァリは王侯貴族を顧客に持ち、工房に息子たちや弟子の職人を抱えて1000挺以上を製作したと言われている。三朝バイオリン美術館前館長で、ヴァイオリン製作者の岡野^{たけひと}壮人さんは「この本数からして、おそらく弟子たちとの共同作業だったはず。自分の理想を他人に形にさせ



おかの たけひと
岡野 壮人

1981年倉吉市生まれ。ヴァイオリン製作のドイツマイスターの資格を持つ無量塔蔵六主宰のヴァイオリン製作学校で学ぶ。その後、プロイス弦楽器マイスター工房で楽器製作、修理、修復技術を学び、フランスでも研修を積む。この間、ストラディヴァリウスの修復技術も習得。2009年、鳥取にアトリエを構え、2013~2022年まで三朝バイオリン美術館館長を務める。鳥取ヴァイオリン製作学校校長。

るのはとても難しいのですが、ストラディヴァリは強い意志で指揮を執ったのでしよう。クレモナの黄金期を築いた立役者です」と、製作者ならではの目線で分析する。

各時代の演奏家が 紡いだ振動を記憶

ヴァイオリンの美しい曲線は女性の姿にも例えられるが、ストラディヴァリウスは均整のとれた黄金比を描く。「演奏家が出したい音を忠実に出せるのが特徴です。ストラディヴァリは、師匠のアマティの型から完全に脱してオリジナルデザインを生み出したが、長年のクセはなかなか抜けないはず。相当研究を重ねて自身の型を再構築したのでは」と、300年前に思いをはせる。

現代では、ストラディヴァリウスは価値の高さや、著名な演奏家が保有していることでも話題になるが、何が人々を惹きつけるのだろうか。

「音で言えば、300年エイジングされたことが大きい。弦楽器は振動を覚えるので、上手な人が弾くと楽器も喜んで発音しますし、長年保管されていたものは状態を戻すのに3~4年しかかからない。ストラディヴァリウスは、各時代の偉大な演奏家たちがすみずみまで音を使い、振動を記憶してきた」。

これが、現代の技術でもストラディヴァリウスを超える作品を製作することが困難とされる理由の一つであり、また著名な演奏家たちが使用していたというストーリー性は、その価値を一層高めている。「スト



1727 Violin

ストラディヴァリウス
1727年製ヴァイオリン「パガニーニ」



1680 Violin

ストラディヴァリウス
1680年製ヴァイオリン「パガニーニ」



1731 Viola

ストラディヴァリウス
1731年製ヴィオラ「パガニーニ」

五感ゆさぶる 四重奏の響き

ラディヴァリは絶対的な存在。私も含め、現代の作家たちは今の時代に合った音で、彼を超えたいことを目指しています」と、岡野さんは製作に情熱を傾け、挑戦を続けている。

希少な四重奏セットで 多彩なプログラム披露

今回の「ストラディヴァリウス・コンサート2022」では、ストラディヴァリウスの弦楽四重奏のセット「パガニーニ・クアルテット」を、ヨーロッパの新進気鋭の弦楽四重奏団「ゴルトムント・クアルテット」が演奏。現存するストラディヴァリウスは約600挺と言われているが、ヴィオラやチェロはもともとの製作数が少なく、さらに四重奏のセットは世界で6セットのみという。これはそのうちの

一つで、所有者のニコロ・パガニーニ(1782-1840)が没した後、散逸していたのを集め直して現在は日本音楽財団が保有している。

岡野さんは「4つの弦楽器がそろっていることが何より貴重で、若手演奏家たちが鳴らす音色も楽しみ。曲の冒頭がクリアに響き、メリハリの効いた音を出すのでは」と見どころを解説。プログラムは古典と現代、両方の曲を楽しめる構成であり、さまざまな音色から好みの曲を見つけられる楽しみもある。

「ストラディヴァリウス、ましてやセットを見聴きできるのは非常に稀な機会。音はもちろん、ステージ上での楽器の輝き、ニスの発色や表情まで、その目で確かめて」。秋の屋下がり、極上の音楽を五感のすみずみまで堪能したい。

1736 Cello

ストラディヴァリウス
1736年製チェロ「パガニーニ」



11/3

指揮者なしのライブ感が魅力



とっとりチェンバーオーケストラ 『第3回弦楽アンサンブルコンサート』

EVENT INFORMATION



日時 2022年11月3日(木・祝)
時間 開場 13:00 開演 14:00
会場 倉吉未来中心 大ホール
チケット 全席指定(税込)
一般 3,000円
U18 無料・要入場整理券
(100席限定)
※未就学児入場不可

<演奏予定曲>
モーツァルト: アイネ・クライネ・ナハトムジーク
シューベルト: 弦楽四重奏曲 第14番「死と乙女」ほか

鳥取県出身・在住のプロ奏者による室内合奏団「とっとりチェンバーオーケストラ」の2年ぶりのコンサートは、指揮者を置かない弦楽アンサンブルだ。奏者同士が目目で会話しながら、互いの力量と感性を信頼し合ってその場で音楽を作り上げるスタイルならではのライブ感が魅力だ。アンサンブルクリニックに参加したジュニアも成長を披露する。

演奏は、モーツァルトの名曲から始まる。メインプログラムの「死と乙女」は、歌曲王・シューベルト作曲の弦楽四重奏曲。その音色の美しさに感動したマーラーが、より叙情的な弦楽合奏版に編曲した。音楽は古典派からロマン派、後期ロマン派と、時代を経て人間の愛情や苦悩を表現する芸術へと開花していく。その変遷を意識した演奏プログラムの構成にも注目したい。

10/15

躍動感あふれる伝説の舞台再演



二期会オペラ『フィガロの結婚』

モーツァルトの傑作オペラ『フィガロの結婚』が、鳥取で上演される。モーツァルトのオペラ主要4作を手がけた宮本亞門は2002年この作品で二期会デビューし、スピード感と躍動感あふれる演出で、連日満席の伝説的な舞台となった。初演から20周年となる再演に際し「原作へのリスペクトを大切にしながら日本の『フィガロ』を作りたい」と意気込む。

「権力者に対する反発を笑いユーモアで包み込んで、最後に人類愛に持っていかせてしまうのがモーツァルトらしさ。オペラを見たことがない若い人にもぜひ見てほしい」と宮本。オアシスな演出と一層表現力を深める東京二期会のキャスト陣、若手筆頭株の角田鋼亮が指揮する東京フィルハーモニー交響楽団が一体となって繰り広げる、圧巻の舞台だ。

EVENT INFORMATION



日時 2022年10月15日(土)
時間 開場 12:00 開演 13:00
会場 とりぎん文化会館 梨花ホール
チケット 全席指定(税込)
S席 10,000円 A席 8,000円
B席 6,000円 C席 4,000円
U25 2,000円 ※C席のみ
※未就学児入場不可

<指揮>角田鋼亮 <演出>宮本亞門
<管弦楽>東京フィルハーモニー交響楽団

INTERVIEW

ときもとのぶ
時本 野歩

鳥取市出身。15歳からチェロを始める。鳥取県立根雨高等学校音楽教養コースを経て、大阪教育大学芸術専攻音楽コース卒業。その後、ロシアに渡りサンクトペテルブルグ音楽院などで2年間学ぶ。帰国後は2012年より、「詩が聴こえる〜チェロリサイタル」シリーズを関西と鳥取にて定期的に開催している。トリオガルモニアメンバー、とっとりチェンバーオーケストラメンバー。



経験踏まえ「基礎の大切さ」伝える

2019年の初回から講師を務めています。毎回、子どもたちの成長には驚かされます。最初は控え目に演奏していた子どもたちが、プロの音を聞いて音楽が開放されていく様子は目を見張るほど。県内ではこうした機会は少ないので、子どもたちにとって、とても貴重な経験だと思います。

私自身は、テレビで聴いたチェロの音に憧れて、高校生からチェロを始めました。最初からプロを目指していましたが、子どもの頃から弦楽器に親しんできた人と違い、体がガチガチで余計な力が入っていて、理想の音とのギャップに耐える日々が続いた

ものです。低弦楽器は高校生頃から始める人も多いので、自分の経験も踏まえて、子どもたちに体の使い方や、基礎の大切さを伝えるようにしています。

過去3回の指導では、1日という限られた時間の中で何を伝えるか、言葉を厳選するようにしてきました。普段習っている先生とは違うアプローチで、その時はわからなくても、将来、「このことだったんだ」とストンと腑に落ちるような、そんな言葉かけを意識しています。今年は初めての2日間の開催ですから、技術的にもより踏み込んだ指導ができると楽しみにしています。



ARTS FOR EVERYONE
鳥取の
未来
のために
触れる・育てる・創る・伝える

若手クラシックアーティスト育成プロジェクト/
アーティスト育成プログラム

弦楽アンサンブル クリニック

プロの演奏家を講師に招き、鳥取県の若き演奏者たちを育てる「弦楽アンサンブルクリニック」。小中高生たちが、地域を越えて同世代の演奏者と交流し、アンサンブルを奏でる楽しさを知る学びの場となっている。

今年で4回目を迎える「弦楽アンサンブルクリニック」は、鳥取県内の弦楽器演奏に親しむ小学生から高校生を対象とした、次世代のアーティスト育成をめざす取り組みだ。オーディション事業の刷新によって、オーディション参加者の発掘と拡大のための「若手アーティスト育成プロジェクト」が立ち上がり、そのうちの「アーティスト育成プログラム」の柱として、2019年にスタートした。

講師を務めるのは鳥取県出身・在住のプロ奏者による室内合奏団「とっとりチェンバーオーケストラ(TCO)」のメンバーたちだ。プロの演奏や指導

プロの指導で音がみるみる変化

に直接触れることは、子どもたちにとって大きな刺激であり、弓の動かし方やプロの意識を学ぶことで、みるみる音に変化していくことを実感できる。また、県内の若年層の演奏者が集うまたとない機会でもあり、音楽を通じた交流も子どもたちの楽しみだ。中には合奏が初めてという参加者もいて、音や呼吸を重ねて生み出されるアンサンブルの難しさや面白さを体感している。

例年はクリニックのみだったが、今回は成果発表の場も設定。音楽の新たな魅力発見や、意欲や技術の向上へとつながっていく。



五感を研ぎ澄まして奏でた合奏(2021年10月)

初級

とっとりチェンバーオーケストラ(TCO)メンバーによる 弦楽アンサンブルクリニック

(小学校1年生～高校3年生対象)

上級

個人レッスンでは味わえないアンサンブルを楽しむ



初回



名曲にチャレンジし、演奏技術とアンサンブル力の向上を目指す

クリニックの最後にご家族を招いて発表会

成果発表
(今年度初の試み)

11/3(木・祝)倉吉未来中心で開催する「弦楽アンサンブルコンサート※」にTCOと一緒に出演

※公演情報の詳細はP05をご覧ください

鳥取県立米子白鳳高等学校 郷土芸能部

【設立/2005年4月1日 メンバー/12人】

郷土芸能部は学校が設立された2005年に創部。地元淀江地区に伝わる「淀江さんこ節」の継承・発展に努めるとともに、数多くの公演活動を行っています。淀江さんこ節は元々は労働歌。さまざまな作業の中から、曲のテンポに合う、滑稽な草草の「壁塗りさんこ」が踊られるようになりました。

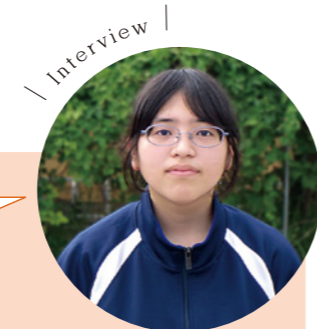


鳥取県高等学校総合文化祭郷土芸能部門発表会(2022年6月、倉吉未来中心)



FOCUS ON

見てくださる方に「笑いと福」を届けたい



前田 侑香さん
16歳/活動歴1年

先輩方の傘踊りを見て「かっこいい!」と思ったのが、郷土芸能部に興味を持ったきっかけです。自分は現在、唄を担当しています。最初はただの好奇心で始めましたが、今ではすごくハマってしまい、唄い手として地方(演奏者)や踊り手に合わせることができるような力がついたと思います。淀江さんこ節は見てくださる方に「笑いと福」を与える芸能。米子白鳳高校の演じる淀江さんこ節で、皆様に笑顔になってもらい、幸せな気分を感じていただけるよう精一杯頑張ります。

生徒たちとともに後世へ

江戸時代から継承されていた「淀江さんこ節」は、しばらくの間途絶えていたが、昭和になってから「淀江さんこ節保存会」の方々が復活されました。わが高校の郷土芸能部が引き継ぎ、地域文化に貢献できるよう、今後も生徒たちとともに頑張って広めていきたい。



顧問
岩永 誠一さん



鳥の眼
torinome

新しい形で祭りを

この夏、鳥取のしゃんしゃん祭、米子のがいな祭をはじめ、各地で3年ぶりに夏祭りが開催された。コロナ前のにぎわいには及ばないが新たな趣向や取り組みもあり、祭りがいかに地域を元気にするかを実感した。

しゃんしゃん祭は市内中心地から郊外に会場を移し観客を2000人に絞って、がいな祭は駅前通りでいずれもコロナ対策と両立させながら開催された。がいな祭は節目にあたる第50回の来年につなごうとの意気込みと工夫がみられた。

その一方で各地の盆踊りや夏祭りは今年も見送るところが多かった。久しぶりに帰省した人たちにとっては寂しい盆となった。親や兄弟が一堂に集まって先祖を供養する。夜が更けるまで盆踊りの輪が広がり、村中がにぎわった子どもの頃の懐かしい風景がよみがえる。

地域にとって盆踊りや納涼祭は地域の住民同士の絆を強める大切なコミュニケーションの場である。一時廃れていたが近年復活し、年々盛んになってただけにコロナ禍で3年続けて開けず、このままでは途絶えてしまうと心配する地区も少なくない。

これから実りの秋とともに本格的な秋祭りの季節を迎える。農山村に伝わる伝統的な祭りや行事はもとより、地区の氏神さんの祭りも急速に進む過疎や高齢化で開催そのものが難しくなっている。慢性的な後継者不足にコロナ禍が追い打ちをかけた。当然、これまでと同じようにはいかないだろう。

今後はそれぞれの地区で知恵を出し合い、時代に合ったやり方を考える。若い人や女性、子どもたちに移住者やボランティアの学生など外部の力も借りて新しい形に変えていく。そのためには行政の支援も欠かせない。

とっとりチェンバーオーケストラ ・TCO・ Pre-talk

現在、県内外のオーケストラや弦楽四重奏で活躍中の2人は、実は幼なじみ。それぞれの楽器の魅力や演奏の楽しみを本音で語ります!

ヴァイオリン奏者
たけだ しおり
竹田 詩織

ヴィオラ奏者
たな はしこ
棚橋 恭子

教えて! 本番前のMyルーティーン/

普段と違うことをすると、かえって何か起こりそうなので、いつも通り過ごすようにしています。

消化にエネルギーを取られなくて、舞台前の食事は控え目。演奏に全身全霊を注いでいます。



子どもの頃から意識

棚橋 4歳の時にTVでヴァイオリンを弾いている人を見て、「かっこいい!これやりたい!」って言ったのを今でも覚えてる。その後、たまたま弓をあてるとメロディーが流れる玩具のヴァイオリンを弾いて、それで弾ける気になって始めた(笑)。しーちゃんとは、お互い小学生の時に入ったジュニアオーケストラで出会ったけど、当時からプロを意識していた?

竹田 物心ついた頃から将来は音楽に携りたいと思っていただけ、地方で音楽を続けることに限界を感じて、中学1年で一度楽器を置いたの。でもその姿を見た両親が京都までレッスンに行かせてくれて、そこからは「後には引けない!」って芸大へ。そこで仲間と音楽をする楽しさを知って、ヴァイオリ

オーケストラは小宇宙 その究極がカルテット

二ストとして生きていくこと心から思ったの。

歯車がかみ合う奇跡

棚橋 オーケストラはチーム戦。各楽器、各パートのチームがあって、その編成にしかできない音楽をつくり上げるところが本当に素晴らしいよね。

竹田 それぞれ個性の強い音楽家たちが、歯車がかみ合うようにひとつの音楽をつくり出すことは奇跡。オーケストラは人類や社会のあらゆる要素が含まれた小宇宙。それが究極に洗練された形が四重奏であり、拡大したものがオーケストラじゃないかな。

異なる個性、一つの音に

棚橋 カルテットは、初めて会う演奏家と組むことも多いけど、お互いの音楽性や人間性に刺激を受けながら、尊重し

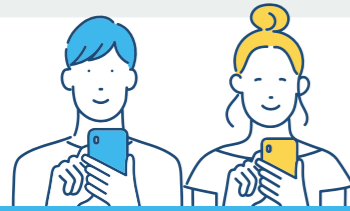
合い、最高を目指して個人レベルで高めあえる醍醐味があるよね。

竹田 経験や感性は、音楽家それぞれで違うもの。その異なる個性がステージ上でひとつになった感動と、音楽が創造されて膨らんでいく瞬間を、いろいろな人に味わってもらいたいな。

棚橋 音楽を続けてきて本当に良かったと感じる瞬間。演奏するたびに「音楽人生で今、一番音楽が好き!」って思う。本当に幸せなことだと実感するね。

室内楽とオーケストラの違いとは?

室内楽は少人数編成で、各パートをひとりの独奏者が演奏する。多くの人々が一度は耳にしたことがある「三重奏(トリオ)」や「四重奏(カルテット)」も室内楽の編成だ。特に弦楽四重奏は第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロで構成される室内楽を代表するジャンル。弦楽器、管楽器、打楽器で編成されるオーケストラの規模を縮小していくと、最後に残る姿が弦楽四重奏と言われている。



電子チケットでより便利に！ 「WEBチケとっとり」試験導入スタート



当財団では、8月以降の公演から電子チケット「WEBチケとっとり」の試験導入を開始しました。電子チケットは、スマートフォンひとつで完結し、チケットの分配も可能になるなどお得がいっぱい！順次、対象公演を増やしていきます。ぜひご利用ください。

電子チケットはこんなに便利♪

- ① 購入～入場までスマホひとつで完結！
- ② チケット紛失のリスクを減らせます！
- ③ スマートフォン※をお持ちの方へ分配可能。手渡しや郵送の必要なし！
※LINEアプリの事前インストールが必要です
- ④ 手数料は1枚につき130円。窓口に取りに行く手間や交通費も節約！

※公演により「電子チケット」が使用できない公演あり。
※お支払いはクレジットカード決済のみ。
※入場にはスマートフォンが必要。
※不正防止のため、初回のみ「LINE持ち主登録」が必要。

電子チケットの詳しい操作方法・推奨環境等を右記サイトにてご確認の上ご利用ください。

<https://guide.moala.fun/moala-ticket/line-login/>



※画面はイメージです

地域貢献・ネーミングライツ



とりぎん文化会館は、株式会社鳥取銀行のネーミングライツによる支援をいただいて、安定的な施設運営を行っています。

パートナー企業制度 文化芸術を通じたパートナーシップ ～アートが人・地域をつなぐ～

公式サイト



「文化芸術」による地域の発展に向けて共に歩む「パートナー」のみなさま

スペシャルパートナー企業

- 株式会社山陰放送
- 株式会社さんびる
- 株式会社新日本海新聞社
- 株式会社中海テレビ放送
- 日本海テレビジョン放送株式会社
- 堀田石油株式会社

パートナー企業

- 株式会社ウエスコ鳥取支社
- 株式会社エスマート
- 株式会社懸樋工務店
- 有限会社キーワード
- 株式会社衣笠商会
- 株式会社サテライト
- コミュニケーションズネットワーク
- 山陰エレベータ株式会社
- 株式会社山陰合同銀行
- 山陰東芝エレベータ株式会社
- 三光ホールディングス株式会社
- 鳥取ガス株式会社
- 株式会社鳥取銀行
- 鳥取信用金庫
- ヤマタホールディングス株式会社
- 税理士法人山根会計事務所

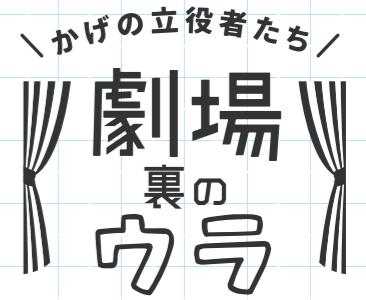
敬称略・五十音順/令和4年8月20日現在



問い合わせ | 公益財団法人鳥取県文化振興財団 総務課 パートナー企業制度担当 TEL:0857-21-8700

聞こえづらさをサポート！ 磁気誘導ループシステム

日ごろ補聴器をお使いの方で、講演会などの際に周囲の音まで拾ってしまい、聞きづらかった経験はありますか？今回は聴覚を影ながらサポートする音響設備、「磁気誘導ループシステム」をご紹介します。



Q1 磁気誘導ループシステムとはどんな装置ですか？

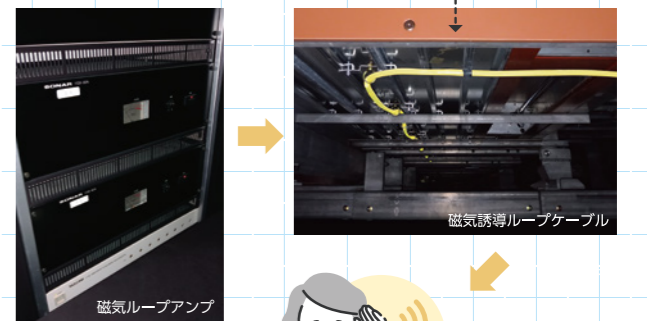
A 周囲の雑音や反響音に影響されない、聞き取りやすい音を、ご利用の補聴器(Tモード機能付き)に直接届ける聴覚支援装置です。一般的な音響設備は、スピーカーから離れば音が小さくなり、響きの多い場所では聞き取りにくくなりがちです。この装置はそうした環境のもとでも、講演など言語の音声を聞き取りやすく届けます。※視覚や聴覚をサポートするための機器の総称を情報支援装置と呼びます



イエローライン：客席の下に設置されたケーブルの位置
このケーブルで囲まれたエリアに磁界が発生

Q2 どのような仕組みですか？

A 客席床下に敷設された輪っか状の電線(写真右:黄色ケーブル)に、マイクで収録した音(電気信号)を磁気ループアンプで送って磁界を発生させます。そのエリアの中で、補聴器などで磁界信号を受信すると、収録した音をイヤホンを通して耳もとで聞ける仕組みです。



Q3 どこで、どのように使えますか？

A とりぎん文化会館、倉吉未来中心の各ホール客席内に設置しています。お手持ちの補聴器をTモードに切り替えると利用できます。受信音が小さいときは、補聴器の向きを変えると改善する場合がありますのでお試しください。

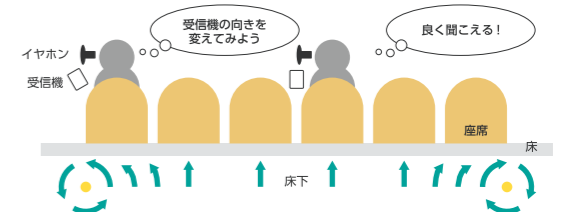
ホールにご来場いただくすべてのお客様に聞き取りやすい音を届けるため、床下という隠れた場所で、開館以来、影ながらがんばっています。

劇場の裏側紹介担当
アルテウラ子



磁気誘導ループシステムの仕組み

磁界内に入ると補聴器内のピックアップコイルに微弱な電流が発生
↓
微弱な電流を増幅
↓
電流によりイヤホン内の振動板を揺らす
↓
振動板の揺れで発生した空気の振動を鼓膜が音声として認識



※「磁気誘導ループシステム」の利用可能範囲は各施設・ホールで異なります。ご利用の詳細は各施設にお問合せください。

EVENT INFORMATION

ピアノ、マリンバの華やかな共演

みらい楽演祭・秋
秋深し未来を彩るトリオコンサート



日 時 10月1日(土) 開演 12:00
会 場 倉吉未来中心 アトリウム
<出演> 山下紘奈子(ピアノ)・岸本聖華(ピアノ)
山内菜央(マリンバ)



東京、大阪、鳥取でしか聴けない音色

ストラディヴァリウス・
コンサート2022



日 時 10月10日(月・祝) 開演 14:00
会 場 倉吉未来中心 大ホール

<出演> ゴルトムント・カルテット
<使用楽器> ストラディヴァリウス「パガニーニ・カルテット」



歌曲王シューベルト「死と乙女」を紐解く

レクチャー・シリーズ
なるほど♪クラシック



日 時 10月22日(土) 開演 10:00
会 場 とりぎん文化会館 リハーサル室

<お話> 新倉健
<演奏> 吉田章一(バリトン)・兼田恵理子(ピアノ)
山田美怜(ヴァイオリン)



プロ演奏家と地元音楽団体のコラボ祭り!

特別共催事業
第4回 わっしょい米子祭り



日 時 10月23日(日) 開演 15:00
会 場 米子市公会堂 大ホール

<出演> BLACK BOTTOM BRASS BAND
北原雅彦(東京スカパラダイスオーケストラ)
DEPAPEPE(ギターインストゥルメンタルユニット)
松本茜(ピアノ/米子市出身) 他



“観ても、聴いても、美しく、楽しい”

特別共催事業
高嶋ちさ子12人のヴァイオリニスト
コンサートツアー2022-2023



日 時 11月13日(日) 開演 14:30
会 場 倉吉未来中心 大ホール



5つの琴浦合唱団とTCOとのコラボ実現!

実演芸術市町村連携事業
第5回 カウベル合唱フェスティバル



日 時 11月13日(日) 開演 13:30
会 場 琴浦町生涯学習センター

「まなびタウンとうはく」多目的ホール
<出演> とっとりチェンバーオーケストラ(TCO)メンバー
山田美怜・時本さなえ・生原幸太・瀧尾彩



公共財団法人 鳥取県文化振興財団

最新情報はホームページをチェック!

とりぎん文化会館
(県民文化会館/財団事務局)



TEL 0857-21-8700
http://www.torikenmin.jp/kenbun/
〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5
休館日:年末年始および毎月第2・4・5月曜日
(祝日の場合は、その翌平日)

倉吉未来中心



TEL 0858-23-5391
http://www.miraichushin.jp/
〒682-0816 倉吉市駅経寺町212-5
休館日:年末年始および毎月第1・3・5月曜日
(祝日の場合は、その翌平日)

アルテプラザ

(財団西部事務所)



TEL 0859-38-5127
http://www.torikenmin.jp/arteplaza/
〒683-0043 米子市末広町311 米子駅前
ショッピングセンター4階(イオン米子駅前店4階)
休業日:年末年始および毎週日曜日・月曜日



情報誌アルテWeb版

[アルテとはスペイン語で芸術、美術、技巧
などの意味で、英語では「Art(アート)」]